

新堀川の浄化方針

1 概要

新堀川の水環境改善に向けて、河川や水質などの有識者にご意見を伺いながら、関係局が連携し様々な水質浄化策について浄化効果等を検証し、今後の浄化方針を取りまとめた。

2 関係局

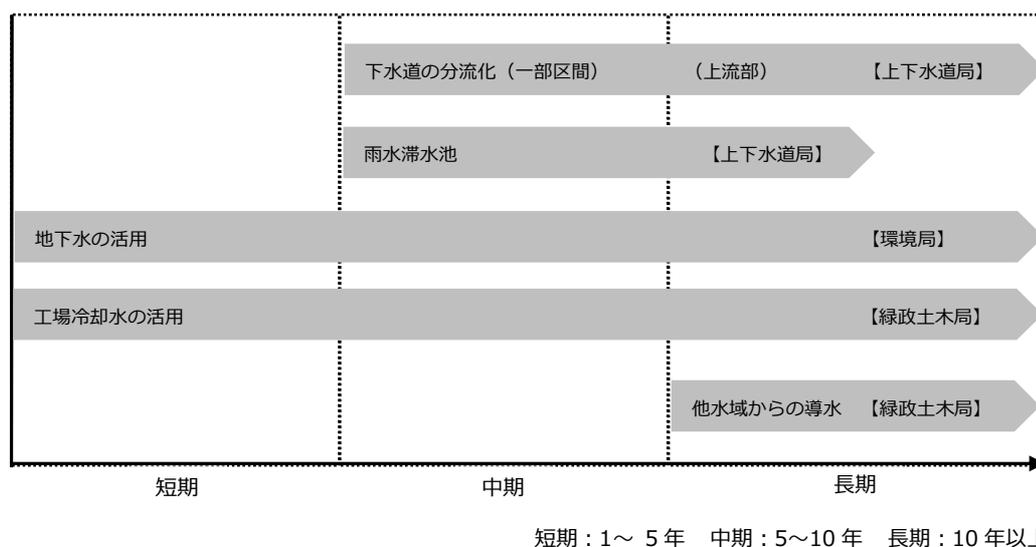
緑政土木局河川計画課、環境局地域環境対策課、上下水道局下水道計画課

3 今後の浄化方針

- ① 水環境改善の根源対策として、汚濁負荷(有機物)を削減できる下水道の分流化をできる限り広域で進める。
また、下水道の分流化を目指す中で、雨水滞水池の整備など早期に効果を発揮する対策を併せて進める。
- ② 短期対策として、底層 D0*の改善が期待できる地下水や工場冷却水を放流する。
- ③ ①②の対策を着実に進め、継続的に水質改善効果を確認する。
また、さらなる水環境改善に向けて、取水先の水質改善に応じて他水域からの導水に取り組む。

*D0：溶存酸素量

< (参考) 想定スケジュール >



4 有識者ヒアリング

(1) 有識者一覧

(五十音順、敬称略)

氏名	役職等	専門分野
だいたう けんじ 大東 憲二	大同大学 情報学部 教授	環境地盤工学、底質学
とみなが あきひろ 富永 晃宏	名古屋工業大学大学院 工学研究科 教授	河川工学、水理学
まつお なおき 松尾 直規	中部大学 名誉教授	河川工学、環境水理学
やぎ あきひこ 八木 明彦	愛知工業大学 土木工学科 客員教授	陸水学
よしだ なおこ 吉田 奈央子	名古屋工業大学大学院 工学研究科 准教授	環境微生物学

(2) 有識者の主な意見

○第1回（令和2年7月31日）

(水環境の現状、課題について)

- ・ 雨天時の未処理下水の流入等による汚濁負荷が大きいと思われる。
- ・ 未処理下水の放流量や水質の実態を定量的に把握すべき。
- ・ 底層の水が停滞している。多少下流に流れてもまた戻ってくる。
- ・ 上流部(舞鶴橋付近)で水質が悪い。原因をしっかりと調査すべき。など

(対策の方向性について)

- ・ 短期的な対策と中長期的な対策を同時に進める必要がある。
- ・ 未処理下水の流入については、根源対策として重要である。
- ・ 曝気や覆砂は、それぞれ課題が多く実施は難しいのではないか。
- ・ 水源として、地下水や工場の冷却水を活用し新堀川へ放流できるとよい。
また、底層の水を停滞させないために、他水域からの導水も検討するとよい。
- ・ 可動堰は現実的な対策なのか。海水ではなく有機物があるから臭う。 など

○第2回（令和3年2月2日）

- ・ 下水道対策については、汚濁負荷を減らしても、すぐには河川水質が改善しないかもしれないが、長期的には水質が改善していくと思われる。
- ・ 下水道対策について、対策後の汚濁負荷についても確認できるとよい。
- ・ 対策案には挙がっていないが、下水処理場の更新に合わせて高度処理施設を導入することも長期対策に加えてはどうか。
- ・ 短期対策として、地下水や工場冷却水の活用はできるところから進めてほしい。
- ・ 他河川からの導水について、中川運河と堀川の水循環の促進等により、両水域の水質改善が進むことを見据え、引き続き検討していくべき。
- ・ 水質改善という目的に限れば、可動堰の整備は一定の効果があることから、有効な対策であると考え。

しかしながら、治水機能の確保や生態系の保全等を含めて総合的に検討するなど、慎重に判断を行う必要がある。